

64 仙台湾南部海岸災害復旧事業

受賞機関 国土交通省 東北地方整備局 河川部、
仙台湾河川国道事務所

全建賞審査委員会の評価ポイント

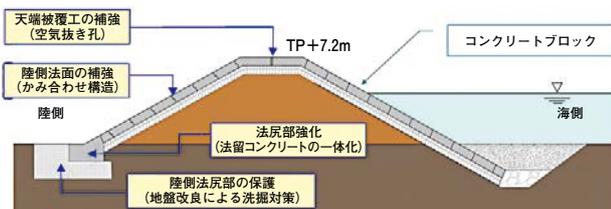
権限代行区間も含め、延長29kmの粘り強い構造の海岸堤防等を国直轄事業で実施し、5年という短期間で整備完了した事業。震災ガレキ活用や改変範囲の縮小など環境にも配慮するとともに、CSG工法による堤防整備など、工夫をして工事を実施したことを評価。

1. はじめに

仙台湾南部海岸は、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震（最大震度7）による大津波の襲来により、海岸堤防が全壊・半壊するなど甚大な被害を受けた。発災後、直轄海岸（既直轄区間）と宮城県知事からの要請を受け「代行法」に基づく権限代行区間合わせて堤防復旧延長29kmの災害復旧工事（本復旧）を平成24年より開始した。本復旧工事は、平成29年3月に約5年という短期間で完成させ、「代行法」に基づく権限代行区間を宮城県に返還した。

2. 事業の概要

海岸堤防の構造については、粘り強く効果を発揮するよう構造を工夫した。施工に際しては、地域と連携し「震災ガレキの活用」、「コンクリート二次製品の活用」を図り、被災地の建設資材不足及び周辺道路の渋滞緩和への取組みを行うとともに「震災がれき」の処理の促進を図った。また、専門の学識者の知見を得て「環境・景観対策」を行うなど自然環境の配慮にも努めた。標準工法による海岸堤防の施工が困難な井土浦地区では、直轄海岸事業においては日本初となるCSG工法^{*}を活用した堤防復旧を実施している。



粘り強い海岸堤防（標準断面図）

3. 事業の成果

井土浦地区の施工にあたっては、粘り強い堤防と同等以上の性能を確保するとともに、地形条件を踏まえた堤防敷幅の縮小及び現場発生品の有効活用の観点から、堤防法面の急勾配化を可能とし、かつ、現場発生品が堤体材料として活用可能となる工法として、CSG工法を採用したが、このことにより、砂浜の改変面積の大幅な抑制による周辺環境への影響緩和及び現場発生材の有効活用によるコスト縮減を図るとともに海岸堤防の早期復旧を行うことができた。



復旧状況（井土浦地区）

4. おわりに

今回の災害復旧事業が5年という短期間で完了することができたのは、官民一体となって、被災地の復旧・復興に取り組んできた成果と考えている。ここで改めて、災害復旧事業に携わった皆様に感謝申し上げたい。

^{*}CSG工法とは、現場周辺で容易に入手できる材料を分級、粒度調整、洗浄を行うことなく、セメント、水を添加し、簡易な混合設備で製造された材料を使用した工法。

賛助会員 (株)大本組、(株)奥村組、戸田建設(株)、(株)橋本店、前田建設工業(株)、三井住友建設(株)